

会 議 記 録

会議名称	第5回社会教育委員の会議
日 時	平成29年1月19日(木) 午前9時33分～午前11時39分
場 所	中棟4階 第2委員会室
出席者	委員／藤川、天野、朝枝、小出、岩崎、多田、内山、笹井 区側／生涯学習スポーツ担当部長、生涯学習推進課長、中央図書館次長、生涯学習推進課管理係長、社会教育推進担当係長(社会教育主事)、教育連携担当係長(社会教育センター社会教育主事)、管理係主事
配付資料	<p><配付資料></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 第4回社会教育委員の会議 会議録(案) 2 平成28年度「小学生名寄自然体験交流事業」の実施報告について 3 第2回すぎなみサイエンスフェスタの実施について 4 平成27年度社会教育調査中間報告について(文部科学省 報道発表) 5 今後の生涯学習にかかる事業の展開に向けて －第14期杉並区社会教育委員の会議まとめ(案)－ <p><参考資料></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 すぎなみ教育報 No.223 2 移動式天文台車 ポラリス2号 冬の観望会 3 陽明文庫講座 4 講演会 まちの歴史を探る－堀之内妙法寺・高円寺周辺再発見－ 5 学びで地域をゆたかにする講座★プレ企画「学びのクリエイターになる！」 6 ー文部科学省委託事業・学びを通じた地方創生コンファレンスー 学び合いが拓く持続可能な社会「東京コンファレンス」 7 とうきょうの地域教育 No.125 8 とうきょうの地域教育 No.126
会議次第	<p>I 報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 会議録の確認について 2 小学生名寄自然体験交流事業について 3 すぎなみサイエンスフェスタについて <p>II 協議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会教育調査(中間のまとめ)について 2 今後の生涯学習事業の展開に向けて－第14期杉並区社会教育委員の会議まとめ(案)について <p>III その他</p> <p>○次回日程について</p>

(意見要旨)

- 議 長 それでは、第5回社会教育委員の会議を始めさせていただく。初めに、生涯学習スポーツ担当部長からご挨拶をいただきたい。
(生涯学習スポーツ担当部長あいさつ)
- 議 長 ありがとうございます。続きまして、資料の確認をお願いいたします。
(社会教育推進担当係長(社会教育主事)説明)
- 議 長 はい。ありがとうございます。資料につきましてご指摘いただきたい。
(なし)
- 議 長 では、会議資料に移っていきたい。社会教育推進担当係長から1番目の報告事項、会議録の確認について。
(社会教育推進担当係長(社会教育主事)説明)
- 議 長 ありがとうございます。続いて報告事項の2番目、小学生名寄自然体験交流事業について。
(生涯学習推進課長 説明)
- 議 長 希望者が多いので、ぜひ、参加人数を増やし、名寄の事業でしか味わえないことをたくさんの子供たちに経験させてあげたいと思う。
- 生涯学習推進課長 名寄の自然体験交流以外にも、小笠原の交流、ウイロビーの交流があり、名寄の体験交流も25名参加するに当たって、冬の北海道ということで危険も伴い、引率者がほぼ2人に1人ぐらいついていく事業になっている。参加者を増やすとその分、引率者の数も増やさなければいけないというような事情もあり、なかなか人数を増やすということが難しいというのが現状。ただ、可能性があれば検討はしていきたいと思う。
- 議 長 はい。ありがとうございます。ほかに何かありましたら。
(なし)
- 議 長 協議事項に移らせていただく。1番目、文科省が3年ごとにやっている社会教育調査について。
- 社会教育推進担当係長(社会教育主事) 昨年10月の時点での中間報告で公表されたものを配付している。これは、杉並の生涯学習や社会教育にかかわる施設での職員の動きと、全国区の中で見た時の動きと、若干同調する部分と違うと感じられる部分もあり、同じような仲間が全国でどうなっているかを知るには、大変参考になる。社会教育の場合、場が必要ということで、まず、施設の傾向がまとめられている。図書館などの充実は見えるが、社会教育の活動を支援する場として公民館のような施設は、残念ながら減少の傾向がとまらない。社会教育活動を支援する場や機関として、図書館の位置が相対的に高まっていると思う。博物館や劇場、音楽堂といった文化施設も少しずつ多くなっており、個人を対象とする図書館などの場所が一つの手がかりになっていると言える。
- その中で学習支援にかかわる職員の推移を見ると、当然のことながら施設の増減に伴って、公民館などで学習支援に当たる主事が減っている。一方、司書や学芸員、スポーツ系施設の指導職員は、施設の増でかなり伸びている。若干気になるのは、司書なども非常勤職を中心として増大していることで、安定的な学びの機会という意味では課題もあるように感じた。

また、指定管理者導入の割合の推移で、劇場・音楽などの専門的な機能を持つ施設は、専門的な知見にある専門事業者の方々が運営しているところが多くなっている状況である。青少年教育施設や社会体育施設などでも、一定の利用者がいるところは、その領域にふさわしい担い手が施設運営に参加している。

最後に、どの施設にあっても、ボランティアの参加を得ながら施設の中の活動を運営する事業が増えてきているが、公民館などの施設館数が減っているので、活動していた人たちは、公民館以外の別の場を求めていく傾向も育まれているのかもしれない。

- 議 長 この統計調査は以前も議論があったが、施設数の推移で公民館は微減し、他の社会教育施設は微増している状況にある中、図書館が特に人気がある。人に着目した調査では公民館主事は減っているが、司書と学芸員が伸びている。また、データには出ていないが、社会教育行政で中心的に役割を果たす社会教育主事が、減ってきているというのは一体なぜなのか。これは全国的な動向だが、杉並区でも同じ傾向にあるのではないか。

一部の自治体では、民間のまちライブラリーという活動が盛んになって、コミュニティカフェに本をたくさん置いて無償で貸し出し、お茶やコーヒーも出すことで、図書を通じた地域交流を図ろうという活動が盛んになってきており、読書活動の持つ個人の学びだけではなく、地域のつながりをつくる場所に読書の活動を使っていくなど、公民館の時代じゃなくて図書館の時代だと思う。何で公民館が人気ないのか、何かコメントがあれば。

- 委 員 セッション杉並は生涯学習センターではなく公民館か。
- 議 長 一般の市民に直接貸し出しをして、市民の人がグループ活動で使っていることなどからも、公民館の活動そのものなので、中央公民館的な存在ではないかと私は見ている。
- 委 員 小学校がなくなるのと同様に公民館が減っているとも捉えた。全国規模からして、人口減少と公民館の減少がつながるのかと考えた。
- 議 長 社会教育施設は、地域、コミュニティを基盤にしており、人との絆が疎遠になれば、公民館も必然的に衰退すると思う。多目的施設なため施設の個性がなく、価値観が多様化しつつ情報化社会の中で、無個性で無目的というのは埋没してしまう。公民館はその典型ではないかと思う。個性化されたものが魅力になり、情報発信になるということからすれば、文化施設や博物館は非常に多種多様なものができて、お互いに切磋琢磨できる。
- 委 員 杉並の地域区民センターが公民館に当たるのかよくわからない。
- 議 長 社会教育センターが中央公民館的な役割を果たしているのだと私は理解している。
- 社会教育推進担当係長（社会教育主事） 社会教育調査を実施する際に、杉並の中では社会教育センターに公民館の調査票が送られており、認識としては中央公民館という位置なのだと思う。一方、地域区民センターは、コミュニティ施設という表現で、貸し館があり、区民センター協議会という組織が置かれ地元の方々の意見を聞きながら事業も実施している。こうした活動からは、社会教育と全く似たような認識になるかと思うが、行政的な位置づけでいくと、社会教育センターは教育委員会の教育機関で、地域区民センターはコミュニティセンターとして、コミュニティを振興する場の提供という役割で、位置づけが違う。これを区民の側からすれば、好きなところを使って

主体的に活動されているので、公民館かどうかは別だが社会教育だと言えるのだと思う。

- 委員 多目的という意味で言うと、地域区民センターは公民館だと思っていたが、七つの地域区民センターはデータに反映されていないのか。
- 社会教育推進担当係長（社会教育主事） 調査対象施設になっていないため、反映されていない。
- 議長 ほかにはいかがか。
- 副議長 公民館が減ってしまう背景には、時代変化に合わなくなってきたことがあると思う。今は24時間で都会が動いている状態だと思うが、公民館の使用は、早くても午前8時から午後10時までということも例外的にあるものの通常は午後6時ぐらいで閉まるので、働いている人間は使うことができない。これでは、公民館施設を使える人たちが限定されるのだろう。
- 議長 なるほど。ありがとうございます。他にありましたら。

(なし)

- 議長 では協議事項の2番目、今後の生涯学習事業の展開に向けてと、我々の会議の意見のまとめ（案）だが、協議をしたいと思う。
- 社会教育推進担当係長（社会教育主事） 公民館があった時代が平成元年で終わり、それから社会教育センターの時代に移った。また、杉並区立青年館は、「金の卵」と言われる地方からの若者がたくさん都市に入ってきた際の青年向けの余暇活動の場、当時としては補完のための教育ということもあったが、学び切れていない部分を支援することもあり、教育機会の提供という意味で、区の中に3館整備をしている。その若者層が高齢化するに伴い、平成元年の社教センター設立の際に施設名を「社会教育会館」と変え、区民が使える施設で、事業も若者だけでなく区民対象で行うという展開をしている。しかし、総体的に役割が見えづらくなってきたことから、平成14年以降、順次この3館を閉館し、社会教育センターに統合していく流れがあった。

もう一つは、現在、出前型・ネットワーク型で展開をしている科学教育分野においても、旧科学教育センターが、昭和44年に設立以降、平成14年に名前を「科学館」と変えるまでの間、科学教育事業を担っていた。学校の理科教育支援という枠だけでなく区民の科学の振興を図ってきたが、施設の老朽化で平成27年3月に閉館した。この事業を受け継いだのが社会教育センターであった。新たな展開に対して、拠点としての役割に多大な期待もあったが、地域に寄り添い、区民の自主的自発的な営みを支援する目的からすれば、1館だけに集めることは当然不可能で、拠点と言いつつ、事業の展開や社会教育活動の場としては、杉並区内の場を使いながら展開していくというのが当然として考えら、出前型・ネットワーク型で最もふさわしい場所で地域の人たちと事業をつくるといった展開が考え方として出てきている。

今回のまとめは、ここでの議論と杉並区として計画の改定などをふまえ、その機会を生かしながら、社会教育の振興をどう図っていけるかを考えるためのまとめという位置づけで整理した。

- 議長 ありがとうございます。出前型・ネットワーク型の事業展開が基本的なコンセプトになっていることは、これまでの議論で共通理解を得ていると思うが、どんな事業を展開して場を使うのかには、議論が進んでいないと思う。個人的な意見だが居場所をつくるような事業は大事だと思う。社会参加はCAMOプロジェクトの取組などもあるが、特に若い人たちや子育て

- で悩んでいる親御さんたちが集まって積極的に社会参加できる場にはファシリテーションが必要で、社会教育のネットワークがあってもいい。
- 委員 CAMOプロジェクトは、もともと社会教育センターの事業として立ち上げられたが、セシオン杉並の中で事業を展開しているというわけではなく、いろんな場で活動していくということを通して、人と人とがコミュニケーションしていく。それが一番つながりとして大事にしていた事業だった。場だけを提供するのではなく、コーディネート機能があることによって、区民たちの活動をバックアップしていく必要性から、人と人とのつながりがスマホの中になっていってしまう中で、どれだけリアルにつながっていくかということを考えていく上でも、出前型・ネットワーク型・コーディネート型で事業展開が必要だと思う。
 - 副議長 スマホの時代の中であって、人と人がつながるという言葉がとても重く感じられる。人と人とがこうして集まっていることで、ぬくもりやにおいを感じられ、それが物理的に「いる」というコミュニケーションの場となるのだと思った。
 - 委員 働き盛りの人たちは杉並区内には昼間いなくて、杉並区内の施設を利用したり、講座に参加したりという実働隊の構成は、家庭にいる女性やお年寄りか産休中の人、学生ぐらいまでの子供ではないか。そう考えた時、そこに向けたものに特化する視点を持って、どういう事業を考えたらいいのかわからなくなる。
 - 委員 別な話になってしまうかもしれないが、例えば学校図書館などで言えば、本が好きな子が行けば、そこで全然違う話題で人間関係ができることも十分起き得るであろう。部活をやっていない、家に帰っても勉強ができる環境にない。だから、とりあえず図書室に行く。でも、そのことによって学年や学級を超えた人間関係が生まれてくる。そのような発想で、次世代に向けて考えていくところに価値があるように思った。
 - 委員 リアルな人間関係をつくるという機会を創設するというのが今後やはり大事であり、すると出前であちこち行くということがすごく必要になっているのだと思う。ただ、その場を設定するだけではなくてコーディネート力のある人がいないと、出前の出先だけつくってもしかたがないであろう。
 - 議長 ありがとうございます。もう少し整理をしてこの検討に臨みたい。最後に生涯学習推進課長からご挨拶いただきたい。
(生涯学習推進課長 あいさつ)
 - 議長 これで閉会します。ありがとうございます。